

エコアクション21

環境経営レポート

株式会社 清水組

運用期間 : 令和3年1月～令和3年12月

作成年月日 : 令和04年 3月 31日

[第九版]

株式会社 清水組

環境経営方針

■環境理念

昨今の深刻化する地球規模の環境悪化を防ぎ、当社は建設業の活動を通し、次世代に緑豊かな環境と住みよい社会を残す事を目的とします。社員一丸となって法令順守の元、環境への取組を実施・継続する事を推進し、環境負荷を継続的に削減していく事に努めます。

■環境保全への行動指針

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

①二酸化炭素排出量の削減(低炭素社会への対応)

- ・電力
- ・化石燃料

②廃棄物の削減及び再資源化の推進(循環型社会への対応)

- ・産業廃棄物 (廃プラスチック類、木くず、繊維くず、がれき)
- ・一般廃棄物 (紙類)

③総排水量の削減(水資源の保全)

- ・一般水道水

④グリーン購入の推進

⑤自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する取組

⑥生物多様性の保全と持続可能な利用の為の取組

⑦社会貢献

制定日:平成 22年 6月 1日

改定日:令和 1年12月 1日

代表取締役 清水和明

■登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名
株式会社 清水組
代表取締役 清水和明

(2) 事務所の所在地
静岡県静岡市清水区小島町432-1-1
Tel: 054-393-2062 Fax: 054-393-3663
Email: shimizu1970@abeam.ocn.ne.jp
重機倉庫
静岡県静岡市清水区小島町997-9

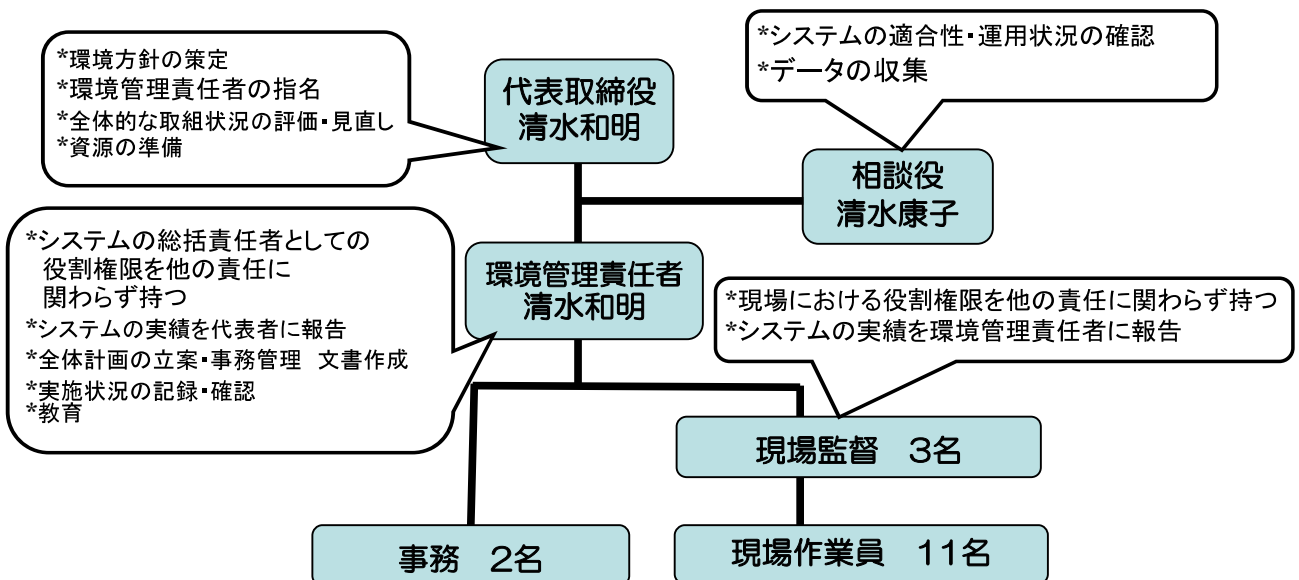
(3) 連絡先
上記(2)項と同様

(4) 環境管理責任者
清水和明

(5) 事業内容(認証・登録の範囲)
1. 土木建設業 2. とび・土工事業 3. 舗装工事業 4. 水道施設工事業
静岡県知事許可(特・般-29)第3758号 有効期限 平成34年10月11日まで

(6) 事業の規模
令和2年 活動規模
・売上高 … 312,372千円
・従業員数 … 21名
・床面積(事務所) … 204.31m²
(倉庫) … 259.20m²

(7) 株式会社 清水組 組織図及び実施体制



■ 今期の環境経営目標及び実績(令和3年1月～令和3年12月)事務所

項目	単位	基準値 H27年実績値	R03年目標値 (-6%)	R03年実績値	達成度 及び 削減率	H27年売上 242,803 千円	
二酸化炭素 排出量の削減 (購入電力)	kWh	7,486	9,078	6,547	○ 72%	R03年売上 312,372 千円	
	kg-CO2	3,608	4,375	3,156			
二酸化炭素 排出量の削減 (ガソリン)	L	1,707	2,071	1,820	○ 88%	R03年売上増減率 1.29	
	kg-CO2	3,963	4,806	4,224			
二酸化炭素排出 量 合計	kg-CO2	7,571	9,181	7,379	○ 80%		
廃棄物排出量 の削減 (白上質紙)	kg	225	273	175	○ 64%		
排水量の削減	m ³	共同使用のため測定不能					
グリーン商品 購入件数	品	6	8	8	○ —		

※削減率=R03年実績値÷R03年目標値。目標値(-6%)に対して100%未満なら○とする(100%の場合、目標値=削減値)

※目標値=H27年実績値×売上増減率(R03年の売上÷H27年の売上)×削減目標値(-6%)

※購入電力の排出係数は「0.482」(中部電力H27年)を使用

※紙使用量はA4用紙1枚=5gで算出

※排水量は共同使用のため測定不能。活動は行っていく

■ 来期以降の環境経営目標

項目	単位	基準値 H27年実績値	R04年目標値 (-7%)	R05年目標値 (-8%)	R06年目標値 (-9%)	R07年目標値 (-10%)	R08年目標値 (-11%)
二酸化炭素 排出量の削減 (購入電力)	kWh	7,486	6,962	6,887	6,812	6,737	6,663
	kg-CO2	3,608	3,356	3,320	3,284	3,247	3,211
二酸化炭素 排出量の削減 (ガソリン)	L	1,707	1,588	1,570	1,553	1,536	1,519
	kg-CO2	3,963	3,686	3,646	3,606	3,567	3,527
二酸化炭素排出 量 合計	kg-CO2	7,571	7,041	6,966	6,890	6,814	6,738
廃棄物排出量 の削減 (白上質紙)	kg	225.0	209.3	207.0	204.8	202.5	200.3
排水量の削減	m ³	共同使用のため測定不能					
グリーン商品 購入件数	品	6	9	9	9	9	9

※目標値については売上原単位を表記している。

上記の数字に売上増減率(上記参照)を積算して算出する。

■ 今期の環境経営目標及び実績(令和03年1月～令和03年12月)現場

項目	単位	基準値 H27年実績値	R03年目標値 (-6%)	R03年実績値	達成度 及び 削減率	H27年売上 242,803 千円
二酸化炭素 排出量の削減 (軽油)	L	35,982	0	25,685	○ #DIV/0!	R03年売上
	kg-CO2	94,429	0	66,268		
二酸化炭素 排出量の削減 (ガソリン)	L	3,231	0	10,784	○ #DIV/0!	R03年売上増減率
	kg-CO2	7,501	0	25,020		
二酸化炭素排出 量 合計	L	39,213	0	36,469	○ #DIV/0!	
	kg-CO2	101,930	0	91,288		
建築廃材 リサイクル率	%	100	100	100	○ 100%	
創意工夫 実施率	件	100	100	100	○ -	
現場件数 (燃料使用現場延 べ件数)	件	22	-	13		

※削減率=R03年実績値÷R03年目標値。目標値(-6%)に対して100%未満なら○とする(100%の場合、目標値=削減値)

※目標値=H27年実績値×売上増減率(R03年の売上÷H27年の売上)×削減目標値(-6%)

※創意工夫実施率の分母は工事件数

■ 来期以降の環境経営目標

項目	単位	基準値 H27年実績値	R04年目標値 (-7%)	R05年目標値 (-8%)	R06年目標値 (-9%)	R07年目標値 (-10%)	R08年目標値 (-11%)
二酸化炭素 排出量の削減 (軽油)	L	35,982	33,463	33,103	32,744	32,384	32,024
	kg-CO2	94,429	87,819	86,875	85,930	84,986	84,042
二酸化炭素 排出量の削減 (ガソリン)	L	3,231	3,005	2,973	2,940	2,908	2,876
	kg-CO2	7,501	6,976	6,901	6,826	6,751	6,676
二酸化炭素排出 量 合計	L	39,213	36,468	36,076	35,684	35,292	34,900
	kg-CO2	101,930	94,795	93,776	92,756	91,737	90,718
建築廃材 リサイクル率	%	100	100	100	100	100	100
創意工夫 実施率	%	100	100	100	100	100	100

※目標値については売上原単位を表記している。

上記の数字に売上増減率(上記参照)を積算して算出する。

■ 今期の環境経営計画の取組結果と評価及び次期計画 事務所

(令和03年1月 ~ 令和03年12月)

行動指針	具体的目標	取組内容	取組結果の評価	次期の取組計画
(二酸化炭素社会排出量の削減)	電気使用量 -6%	1. エアコンの温度管理(夏期28℃、冬期23℃) 2. 扇風機の効果的な利用 3. クールビズ・ウォームビズの推奨 4. エアコンフィルターの清掃 5. PC・蛍光灯の不使用时電源OFF 6. ブラインド・カーテンで熱の出入りを調節する	目標は達成できた。 主な理由: エアコン等の稼働時間の短縮や、温度管理を徹底したことによる。	真夏・真冬の温度管理は体調を優先しながら、現在の活動を継続して取り組んでいく。
	ガソリン使用量 -6%	1. 全車両のエコドライブの周知徹底 ・不要な荷物を下ろす ・エアコンを控えめにする ・不要なアイドリングの禁止 2. スケジュール管理による車両使用回数の削減	目標は達成できた。 主な理由: エコドライブを徹底したことによる。	不要な荷物を下ろしたり、エアコンの温度管理の意識をさらに高めていく。
(循環型社会への推進)	紙廃棄量 -6%	1. コピー用紙の両面使用 2. プレビューチェックによる無駄な印刷の防止 3. カラーコピーの使用を制限する 4. 廃棄物の適正処理 ・マニフェストによる適正な処理・管理 ・リサイクルできる資源の確認を徹底する	目標は達成できた。 主な理由: 両面使用を徹底したことによる。	全体的に取組みを行っているので、引き続き現在の活動を継続していく。
(排水全量削減)		1. トイレで水を無駄に流さない 2. 節水表示の取り付け 3. 水道配管からの漏水を定期的に点検する 4. マイボトル等の使用	取組できた。 主な理由: 水道自体の使用頻度は少ない。	引き続き、節水意識を浸透させていく。
社会貢献		1. 町内廃品回収への参加 2. 古紙回収への参加 3. 月1回の会社周辺の清掃活動	取組できた。 今年も積極的に清掃活動等に参加した。	現在の活動を継続していく。
グリーン購入の促進	8品	1. グリーン購入法適合商品 (エコ商品の購入)	取組できた。	引き続き、グリーン商品を優先的に購入していく。
持続性物の利用				
その他				

※削減比は平成27年を基準とする

■ 今期の環境経営計画の取組結果と評価及び次期計画

現場

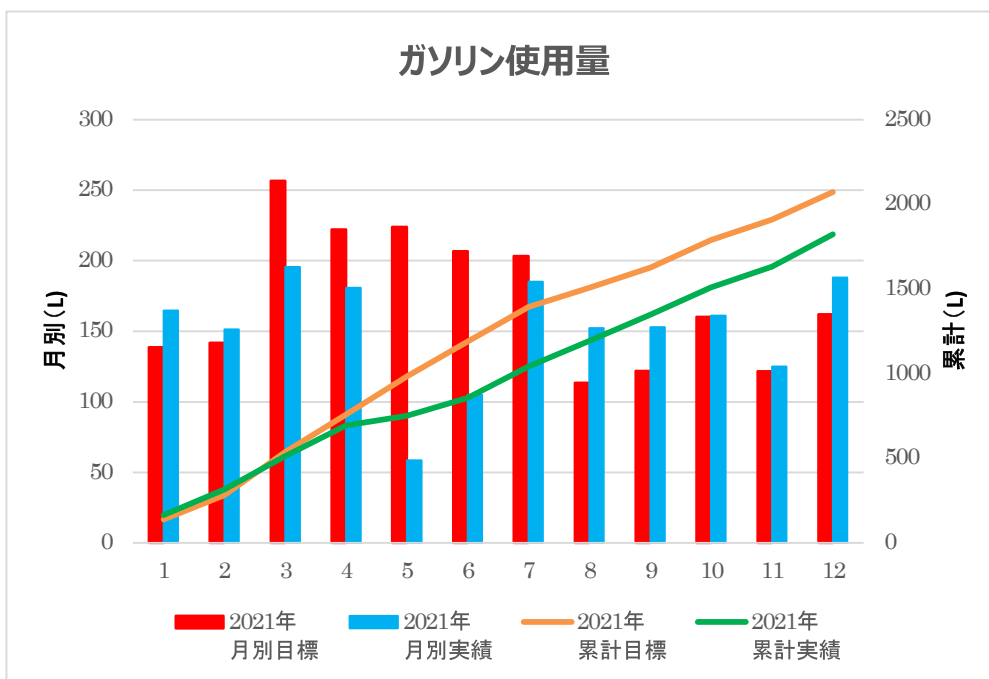
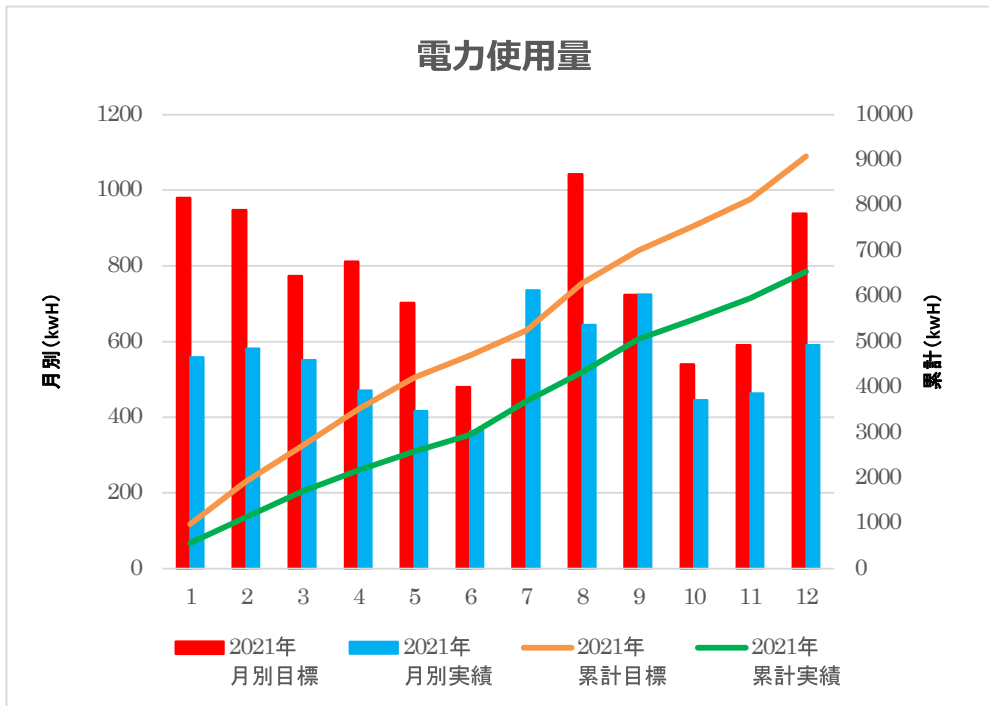
(令和03年1月 ~ 令和03年12月)

行動指針	具体的目標	取組内容	取組結果の評価	次期の取組計画
（低炭素社会への対応） 二酸化炭素削減	ガソリン・軽油 使用量 -6%	1. 全車両のエコドライブの周知徹底 ・不要な荷物を下ろす ・エアコンを控えめにする ・不要なアイドリングの禁止 2. 工期短縮による二酸化炭素排出量の削減 3. 過積載がないか出発前に確認する 4. 建設機械等の買替時、省エネルギー型を導入する	目標は達成できた。 主な理由： 距離が遠い現場が多く、ガソリンは増えたが、エコドライブの徹底と、省エネルギー型の建設機械の使用を徹底したことにより、目標は達成	引き続きエコドライブを意識していく。 可能な限り工期短縮の方法を考えていく。
（循環型社会への対応） 廃棄物削減	リサイクル率 100%	1. 資源ごみの分別を徹底する 2. 廃棄物の適正処理 ・マニフェストによる適正処理・管理 3. 建設副産物の削減・再利用・分別リサイクルの徹底 4. 工事残材の整理	目標は達成できた。 主な理由： 資源ごみの分別を徹底したことによる。	リサイクルしやすい分別や整理のしかたを考えていく。
（水資源の削減） 排水		1. トイレで水を無駄に流さない 2. 節水表示の取り付け 3. 建設道具等の洗浄には雨水を利用する 4. 街路樹や公園緑化の工事では雨水を利用する	取組できた。 主な理由： 節水意識が浸透してきたことによる。	雨水を積極的に利用していく。
社会貢献		1. 環境経営システムの社内公示・教育の推進 2. 委託・協力会社との取組の同調 3. 月1回の会社周辺の清掃活動	取組できた。 社員への意識付けも継続した。	現在の活動を継続していく。
関する 項目に	創意工夫 100%	1. 環境負荷の少ない工法・材料・機械の導入の検討 2. 工事施工段階での創意工夫（環境・住民配慮）	目標は達成できた。 主な理由： 工事毎に廃材のリサイクルを徹底していることによる。	現在の活動を継続しながら、現場全体での目的意識の共有を深めていく。
持性 利用	物の 保全 多 様	1. 工事施工中は可能な限り水質汚濁を起こさない	目標は達成できた。 主な理由： 工程会議で問題になりそうな箇所を随時チェックしたことによる。	事業活動を見直しながら取組内容を増やしていく。
その他		現場監督者へのタブレット端末導入 ・工程変更や修正、作成作業を現場のあいている時間に行う ・指示の迅速な伝達 ・現場状況の画像による報告 ・材料管理 ・KY活動	取組できた 仕事の効率化や安全確保につながった	現在の活動を継続していく。

※削減比は平成27年を基準とする

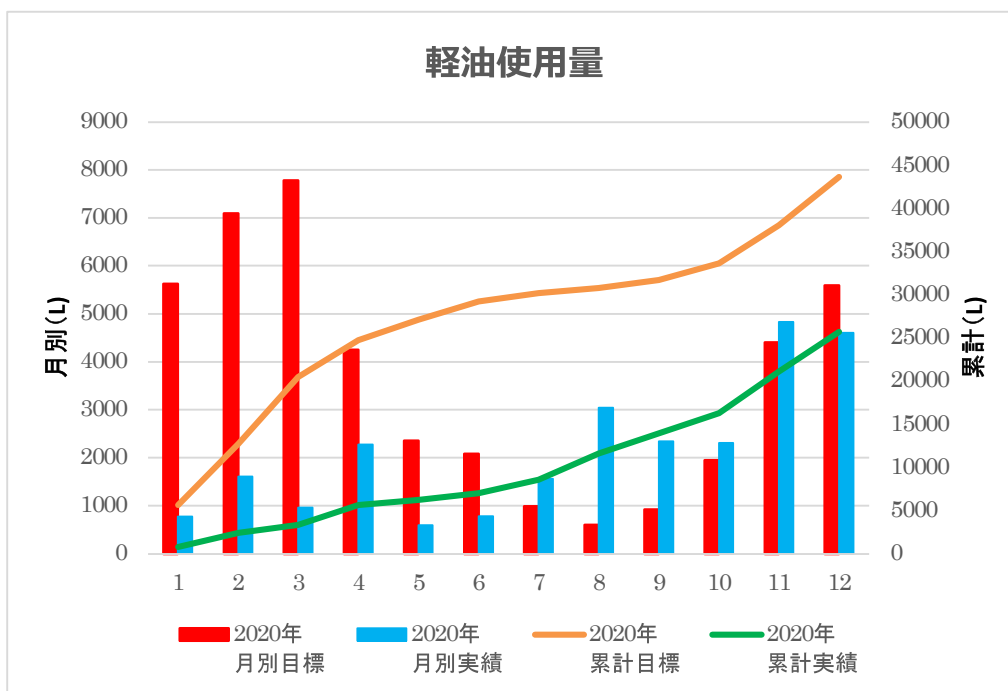
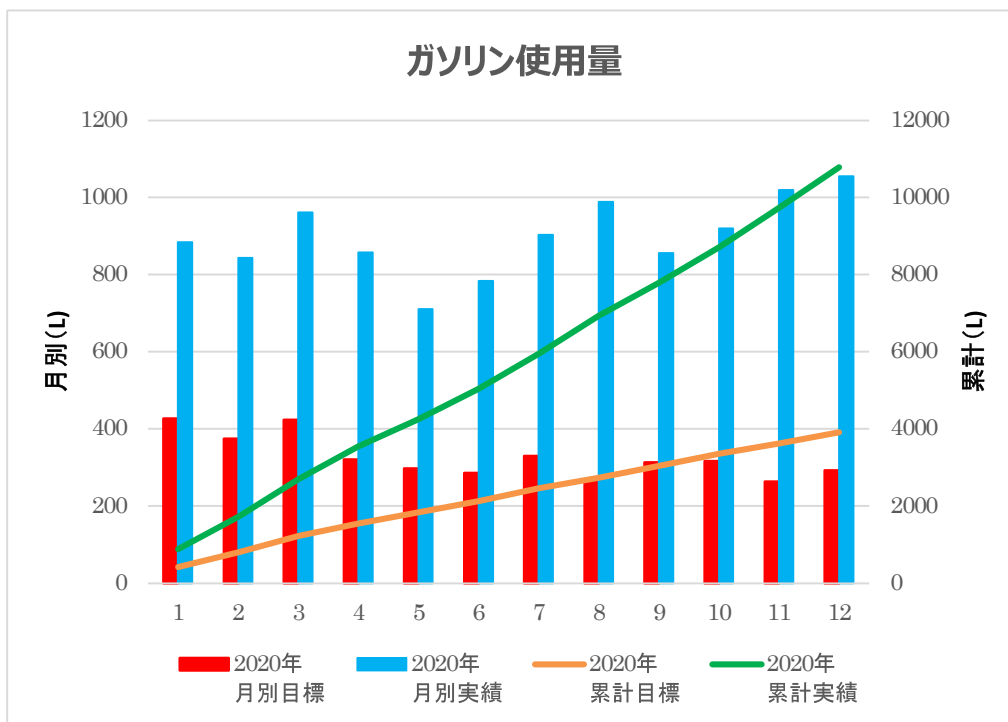
今期の目標実績比較グラフ

事務所



今期の目標実績比較グラフ

現場



■環境関連法規への違反、訴訟の有無

法律・条令・規則	条・項	要求事項・責務	評価日	評価者
			令和4年3月31日	清水 和明
			具体的確認事項	状況
環境基本法	第8条	公害防止・自然環境保全 廃棄物の適正処理 再資源などの利用 国・地方公共団体の政策に協力	エコアクション21への積極的取り組み	○
循環型社会形成推進基本法	第11条	廃棄物の発生抑制 循環的利用 適正処分 国・地方公共団体の施策に協力	3Rへの努力	○
地球温暖化対策推進法	第5条	CO2発生抑制 国・地方公共団体の施策に協力	エコアクション21への積極的取り組み	○
フロン排出抑制法	第41条	フロン類の充填・回収行為の適正化	業務用エアコンの定期的な点検	○
建設リサイクル法	第5、9、16、18条	分別解体実施義務の順守 再資源化等の実施義務の順守 発注者への報告義務の順守	書面での確認	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 静岡市条例	第12条 第4条	廃棄物の抑制、適正な処理、生活環境の 清潔、公衆衛生の向上、廃棄物が運搬され るまでの保管基準、運搬業者・処理業者と の委託基準。マニフェストの管理・保管。中 間処理施設等の現地確認。	マニフェストの管理	○
自動車リサイクル法	第8条	使用済み自動車の引取業者への引き渡し リサイクル料金の支払い	社用車廃棄時の引き渡し 購入時の料金の支払い	○
グリーン購入法	第5条	できる限り環境物品等を 選択するよう努める	再生品・エコマーク又は同等の製品を 優先的に購入 新規購入、買替えは省エネ性能に 優れた物を優先的に購入	○
浄化槽法	第7～11条	年1回の指定機関による水質検査の実施 年1回の浄化槽内の清掃	年1回の水質検査の実施・検査記録の保存	○
騒音規制法	第14条	特定建設作業の実施の届け出	建設重機は、低排出ガス、低騒音の 物を使用する	○
振動規制法	第14条	特定建設作業の実施の届け出	建設重機は、低排出ガス、低騒音の 物を使用する	○

- ①当社に関わる環境関連法規に関して遵守確認した結果、違反はありませんでした。
②また、過去3年間、関連機関からの指摘・訴訟等もありませんでした。

■緊急事態への準備及び対応

(報告)	作成
所長	

緊急事態記録

区分 日時	緊急事態発生 緊急事態対応訓練 手順確認テスト (該当項目を○で囲む) 2021年10月25日 場所：(株)清水組工事現場内 内容： ①責任者不在時の重機オイル漏れ対応訓練 1. オイル漏れ発見 (高橋) 現場内の人に大声で連絡 2. 現場主任へ電話連絡 (小澤) 3. 対応指示 (清水) 4. オイルマット敷設 (小澤、池ヶ谷、高橋、深澤) 5. 重機修理手配・完了 (小澤) 6. オイルマット回収 (小澤、池ヶ谷、深澤、高橋) 訓練・テストの場合参加者：
緊急事態発生、 訓練又はテスト の内容	
担当責任者	清水 和明
問題点 再発防止策 水平展開 確認事項 等	緊急事態（建設機械からのオイル漏れ）発生時の初期対応の確認が出来た。 現場での対応作業手順の確認（オイル漏れ発見→オイルマットによる吸油→機械 破損個所の確認 →機械修理→オイルマット回収）
手順書変更	
備考	

- ・緊急事態対応訓練（テスト）を実施した場合に記録する
- ・テストは手順書が有効であるか、手順書通りに実施できたかを確認すること
- ・緊急事態に繋がるハット・ヒヤットした事項等もこの様式を用いて予防策を行う
- ・重大な緊急事態が発生した場合は、問題点処置票を用いて再発防止と類似事態の発生の予防策を行う

■ 緊急事態への準備及び対応（写真）

緊急事態記録
(発生・**訓練**・テスト)



災害訓練状況

(オイル漏れ想定訓練)



使用資材

タフネルオイルプロッター

■代表者による全体の評価と見直し

作成 令和4年4月4日

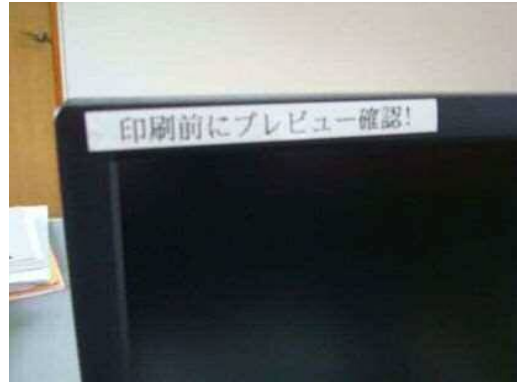
前期 取組結果	見直し指示内容		取組結果
	1	環境活動計画の担当者の検討	各項目ごとに担当者を決めた
	2		
	3		
	4		

今期 見直しのための取組確認結果	項目		確認	:必要に応じて評価・コメント記載
	1	エコアクション21文書	<input checked="" type="checkbox"/>	:
	2	環境経営目標及び目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/>	:取組の効果が表れている
	3	環境経営計画及び取組実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	:各現場ごと定期的に取組を確認する
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/>	:関連法規の条項を入れ、内容が明確になった
	5	外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/>	:なし
	6	問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	:河川や台風の災害復旧時の対策をする
	7	取引先、業界、関係行政機関、その他の外部動向	<input checked="" type="checkbox"/>	:
	8	その他()	<input checked="" type="checkbox"/>	:

今期全体評価・コメント・見直し指示	代表者による見直し指示	項目		見直しの必要	「有」の場合の指示内容等
		1	環境経営方針	無	
		2	環境経営目標・計画	無	
		3	環境経営計画・取組項目	無	
		4	環境に関する組織	無	
		5	その他のシステム要素	無	
		6	その他(外部への対応)	無	
	全体評価	環境への意識の向上は感じられ、事務所および現場の数値は減少している。現在の環境経営システム・取組を維持し、指示の徹底、更に取組を促進することで、経営の効率化・コストダウンの実現を図り、環境経営の推進に貢献する。			

エコアクション21導入後の写真

パソコン



コピー機



社用車



エアコン



社会貢献活動

令和3年は無し

別表 環境への負荷の自己チェック表

<自己チェック表の構成等>

- 事業活動に伴う環境負荷について、本チェック表（Excelファイル）を基に把握してください。
- 環境負荷のうち、二酸化炭素排出量（エネルギー使用量）、一般廃棄物排出量等、産業廃棄物排出量等、水使用量、化学物質使用量は必ず把握してください。
また、エネルギー使用量料金、廃棄物処理費用等についても入力し、どの程度のコストがかかっているかを把握してください。
- 本チェック表は、以下の10シートから構成されています。「入力の手順等」を参考に、必要な数値、項目名、単位等を入力してください。
 - ・ 自己チェック表の構成・入力の手順等（本シート）
 - ・ 1. 事業規模（事業の規模）
 - ・ 2. 環境への負荷の状況（取りまとめ表）：二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量、化学物質使用量を一表に取りまとめる表
 - ・ 3. エネルギー使用量
 - ・ 4. 一般廃棄物排出量等
 - ・ 5. 産業廃棄物排出量等
 - ・ 6. 水使用量及び総排水量
 - ・ 7. 化学物質使用量
 - ・ 8. 資源使用量
 - ・ 9. 総製品生産量または販売量

<入力の手順等>

- ① 環境負荷を把握する期間（年は西暦）を入力してください。1年間の環境負荷データを入力できます。入力した期間は、2～7の各シートの青色のセルに自動で入力されます。

開始年月：	2021	年	1	月
終了年月：	2021	年	12	月

※原則として1年間の環境負荷データを入力しますが、1年未満の期間で入力することもできます。

- ② 各シートのセルに数値、項目名、単位等を入力してください。既に入力されている単位については、必要に応じて変更してください。

黄色のセル は、自動で合計値等が入力され、「2. 環境への負荷の状況（取りまとめ表）」に自動で入力されます。

- ③ 各シートで、列の挿入や削除をすると、青色及び黄色のセルに設定している計算式等がずれることがありますのでご注意ください。